



おにぎり、最高！

週末は畑仕事をするため東京から山梨に足を運ぶ。自らも野菜を作っているが、外部調達が必要で、毎週のよう
に車で10分ほどにあるJA直売所を利用している▼ここでの
楽しみの一つが、直売所の壁に飾られた子どもたちの絵だ。こ
の頃、張り替えられたのが第47回「ごはん・お米とわたし」山
梨県コンクールの作品で、力作が並ぶ。特に目を引かれたのが、
最優秀賞に選ばれた「やっぱり白米だわ」と題する作品。茶碗
に山盛りになったご飯をおいしそうに食べている少年の絵で、
背景にはたわわに実った稲穂が書き込まれている。大きな口を
あけてご飯をかきこむ表情が素晴らしく、やっぱりご飯はうま
い！という思いが率直に伝わってくる▼10枚ほどの作品が並ぶ
が、半分ほどはおにぎりを取り上げており、海苔で巻いたもの
が多い。地元柄、富士山等の景色のいいところで、友達や家族
とおにぎりをほうばる。これを見て思い出したのが映画『かも
め食堂』だ。フィンランド・ヘルシンキで、日本人女性が営む
食堂で、主人公の店主と、たまたま出会った二人の日本人を加
えて、誰もこなかった食堂を満席になるまでにしたという話。
焼きたてのシナモンロールを出したり、コーヒーにこだわった
り、メニューを工夫しながらも、ベースに置いたのはおにぎり。
店主が子どもとき、運動会の時に限ってお父さんが作ってく
れたおにぎりが何よりも一番おいしかったという原体験による。
10年以上前の作品だが、感動してヘルシンキに行った際には、
そのロケをした食堂を探して昼食を食べてもきた▼この映画の
キーワードは「ソウルフード」。ご当地グルメではない。地の
料理をいただきながら、ベースにくるのはご飯であり、おにぎ
りだ。子どもたちの絵を見て、とてもうれしくなった。

(土着菌)